資料4

第2回 検討委員会資料

①委員会意見②アンケート結果③社会情勢をふまえた歴史博物館・幾久公園の役割、機能の考察（案）

［補足：アンケート結果は 8月12日スタート～9月16日回収のデータ］

令和7年9月29日

福井県立歴史博物館、幾久公園の基本的方向性検討委員会

博物館機能（H11基本構想）、公園機能（S55基本計画）を参考に
①委員会意見、②アンケート、③社会情勢をふまえて役割、機能を考察した

■歴史博物館
・「資料収集」について
・「調査・研究」について
・「展示・デジタル発信（普及）」について
・「学び支援」について

■幾久公園
・「みどり・休養」について
・「運動」について

■歴史博物館と幾久公園の一体化
・「地域」エントランスについて
・「広場（集い）」について
・「遊び」について
・「駐車場」について

■歴史博物館、幾久公園のめざす方向性全体像

■歴史博物館

・「資料収集」について
・「調査・研究」について
・「展示・デジタル発信（普及）」について
・「学び支援」について

委員会意見、アンケート、社会情勢を踏まえた役割、機能　1

歴史博物館の「資料収集」について

①委員会のご意見

・収蔵庫としての本来の役割を高めることには、私は基本的には賛成。文化庁からお預かりしている仏像など、非常に価値のある文化財を保存できる環境は大事だと思う。

・地下の収蔵庫と機械室については、水害のリスクを考えると、私はやはり地上にあげるべきだと考える。収蔵庫の増床も含めて考えたほうがいい。

・兵庫の人と自然の博物館は、基本展示はもうぼろぼろになっているが、そちらは触らずに、見せる収蔵庫棟として新しい建物を建てた。
・収蔵庫として、どこまでの機能、面積、収蔵量がほしいかとの兼ね合い。20年後、30年後の話をしたのは、その期間の中でのバランスだと思う。

②アンケートの結果

■Q9〈文化財の現状把握〉について「知っている」は、回答者265名中の170名（64.2%）。

■Q10〈文化財レスキュー〉の重要性を「大切だと思う」は265名中の254名（95.8%）。文化財を守ることの重要性が認識されている。

■Q11の自由意見では「引き続き、貴重な文化財を守り継承していく重要な拠点として頑張っていただきたい」「収蔵庫を大規模にして県民の資料を一手に保存してほしい」といった意見もあり、文化財保存の拠点となることが求められている。

③社会情勢・博物館の現状

■『博物館総合調査』では、収蔵庫の資料が「ほぼ満杯の状態」「収蔵庫に入りきらない」の合計は全体の57.2%。
【資料3　P3参照】

■全国的な事例では収蔵庫の拡充及びコレクションマネジメント整備・運用、共同収蔵庫の創設などの方策がとられはじめている。【資料3　P4-6参照】

■日頃より、地域の人々の寄贈・寄託の相談対応を行っている。
■市町や他施設等と連携して、地域の資料の散逸や流失を防ぎながら、資料を選別しつつ受入れている一方で、収蔵量超過や収蔵庫の空調設備故障、地下にあることによる水害リスク等問題あり。
【資料3　P19参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆日頃より地域の人々から寄贈・寄託の相談を受けたり、市町や他施設と連携して文化財（資料）の受入を行っているが、全国的な傾向同様収蔵庫不足の状況にあり、収蔵庫の位置・機能・面積・収蔵量等の『収集・保存』の方針をバランスを鑑みながら中・長期視点で検討する必要がある。文化財保護法の改正や他都市事例を踏まえると、災害対応の観点から、収蔵庫の設置場所や資料の殺菌・殺虫、災害時の対応設備等『文化財レスキュー』についても講じていく必要がある。市町の博物館や人々等地域と協力しながら、中核施設（拠点）として地域に残る文化財を守っていくことが求められる。

役割：県内地域の宝を守り活かす中核施設　／　地域とともにあゆむ博物館

機能：収集・保存・レスキュー

委員会意見、アンケート、社会情勢を踏まえた役割、機能　2

歴史博物館の「調査研究」について

①委員会のご意見

※「調査・研究」については第1回委員会では特にご意見はありませんでした。

②アンケートの結果

■「調査・研究」の成果ともいえる企画展についての設問に注目した。
■Q5〈心に残っている企画展〉の名称または内容を記入したのは、
・来館経験者　209名中112件（53.5%）　よく覚えていない22名（10.5%）
・また、上記を記入した85名中20名は2つ以上の企画展をあげている。
■来館経験者の約半数（51.7%）が企画展を観覧。
■「永平寺展」（16件）をあげた人がもっとも多いことを除けば、心に残っている企画展の内容に大きな片寄りがないことも興味深い。柴田勝家や結城秀康等の歴史的人物、古地図、刀剣、陶芸、百貨店、福井地震、川、宗教、昭和の子どもたちなど、まんべんなく支持されており、企画展テーマの幅広さも歴史博物館の特長の一つと考えられる。

■Q6〈もっと見たい、充実して欲しい展示や資料はありますか〉では145件の回答があり、「福井県の各地の古い地図をもっと見たい」「地区ごとの古地図があると最高」などといった意見や■Q8〈歴史博物館に期待する役割や機能〉では「地域の歴史や文化の発信」が最も多い（61.1%）。県内各地域の歴史を知りたい人が多い結果。

■Q6ではまた、仏像・民具・古地図・古文書・土器・武具・陶器・民芸品・織物・古写真・昔の映像といった資料や、旧石器から現代まで各時代の展示が見たい、ほかにも地形や地質を紹介してほしいといった意見があり、幅広い分野の資料が求められている。

③社会情勢・博物館の現状

■県内大学において、歴史系の学部・学科が存在しないことで、文化（財）の担い手の養成や調査研究において、当歴史博物館が担う役割は大きいと考えている。

■学芸員不足により各分野がカバーできておらず、短期的・個別的な調査研究が主であるものの、日頃より館内外で県内各地域の資料を調査研究し、展示・紀要等で成果を発信している。

■市町や博物館関係者等との共同調査・研究・交流の機会を設けて、共同での調査研究を行ったり、地域のまちづくり協議会等が設置する歴史案内看板内容作成に協力したりしている。【資料3　P21　参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆「調査研究」は、国宝・重要文化財・指定文化財はもとより、何気なく見過ごしがちな多種多様な資料や、それらの資料を伝えてきた地域の人々の歴史が、実は宝ともよべるような価値や魅力があることを明らかにする価値創出行為でもある。調査研究の成果は、県内外の人々が、これまで明らかではなかった県内各地の価値や魅力を知ることにつながる。また、資料の保存・調査の担い手を養成したり、地域おこしや観光の素材を提供したりするなど、教育や観光の基盤ともなる。県内地域の宝を守り活かす中核施設として、諸団体と連携しながら県内各地・各分野の幅広い「調査研究」が一層、求められる。

役割：県内地域の宝を守り活かす中核施設

機能：調査研究

歴史博物館の「普及」デジタル発信について

①委員会のご意見

※第1回委員会では「デジタル発信」と併せ、特にご意見はありませんでした。

②アンケートの結果

■博物館アンケート Q7〈施設や運営で改善･付加してほしいところ〉の来館経験者170名の回答は以下の通り。
- ・資料のデジタル公開　37/209（17.7%）
- ・Wi-Fi環境　34/209（16.2%）

■要望が特に多いわけではないが一定の支持があると考えられる。
■小学校その他の施設では要望する理由として、資料をデジタル提示すると興味関心につながる、価値のある資料を子どもたちの学習に生かしたい、タブレット端末用にフリーWi-Fiが使用できると学習の幅が広がるなどがあげられており、資料のデジタルアーカイブ化の推進、公開が校外学習の支援につながる。※歴史博物館のWi-Fiは対応済

■Q11 そのほか、ご意見･ご要望では規模の大きい特別展に対する要望のコメントがあった。「特別展がとてもいい企画をしているのに、展示スペースが狭すぎてもったいない」「特別展をしている展示室が思いのほか狭い。広ければもっと大きな展覧会が開けるのでは」

③社会情勢･博物館の現状

■博物館法の改正において、博物館資料のデジタルアーカイブ化など、デジタル技術の活用が求められている。
【資料3　P2参照】

■現状、博物館においても、HP、SNS等の随時更新を実施しているが、デジタル公開の速さ、質、量に加えて、発信活動を支える人材も足りない状況。

■文化財保護法に基づく事前手続きの簡素化や経費支援を受けられる「公開承認施設」は全国で53館、福井県では当館をはじめ計3館が取得しているのみ。継続取得が望まれる。

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆収蔵資料のデジタル化及び公開は進行中だが、収蔵資料の一部公開にとどまっている。博物館法の改正に基づき、以下の観点より意義深いデジタル化を推進する。①博物館資料に係る情報の保存と体系化 ② 博物館における調査研究の成果を含めた資料の公共化 ③ 多様な創造的活動への博物館資料の活用の促進。県民の学びや地域の宝を活かす観点からも今後、特別展示室の拡充や公開承認施設の継続により、国宝、重要文化財の展示充実をさせながら『学び支援』『デジタル発信』の一層の対応強化が望まれる。

役割：県民の学びの場　／　県内地域の宝を守り活かす中核施設	機能：デジタル発信/学び支援

歴史博物館の「学び支援」について

①委員会のご意見

・世界的に見ても中高生は博物館に一番来ない世代。本当に中学生に来てほしいのか。

・ハンズ･オンを入れながら小学生への対応の観覧ルートをつくることはできる。

・人気の昭和のくらしだけ見て帰ることがないように、トピックゾーンに行くまでにいろいろ見て体験できるようなストーリーになると、他の展示も生きてくる。

②アンケートの結果

■Q7〈改善･付加して欲しい（複数回答）〉の上位3項目は以下の通り。
・体験･体感型展示　99/209（47.3%）
・子どもの学び支援　64/209（30.1%）
・講座･ワークショップ　61/209（29.2%）

■回答から、単に展示を見るだけでなく、体験型展示や学び支援ワークショップなどの形で積極的に学びたいという意欲が感じられる。

■博物館アンケートの回答者の97%以上は「20代」以上であり、ターゲットとして重視すべき大人世代であるが、Q8〈博物館に「地域の歴史や文化の発信（162/265）」に次いで、期待する役割や機能〉として「子どもや若者の学びの場になる（129/265）（50.7%）」があげられており、「学び支援」への県民の期待は比較的高い。
■引率者からは、ここに来れば福井の歴史について調べられるというような、「歴史的資料を間近で見られる図書館」的な機能を拡充し、子どもが自分で調べ物や自由研究などができる場を提供してほしい」といった意見がある。

③社会情勢･博物館の現状

■歴史博物館の基本構想では、解説等は中学生を基準。小学生の来館も多く、対応が必要。【資料3　P20参照】
R6年度　歴史博物館入館者数調査
・一般 49,358/ 68,799（71.7%）
・大学生1,395 / 68,799（2.0%）
・高校生1,422 / 68,799（2.0%）
・小中学生11,427 / 68,799（16.6%）
・高齢者12,191 / 68,799（17.7%）
・障害者3,498 / 68,799（5.0%）
・幼児2,878 / 68,799（4.2%）

■講座や学校への出前授業などを行っている。

■歴史博物館の近隣には小中高大の各世代の学校や図書館、美術館、こども歴史文化館がある。【資料3　P17参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆「子どもや若者の学びの場」になることへの県民の期待に応えることが求められる。例として小学生対応ではハンズ･オンを入れながら、好奇心を引き、分かり易い観覧ルートの拡充やワークショップの実施などの『学び支援』の充実が望まれる。また、体験型の展示を導入し子どものみならず、大人を含めた全世代の学びを支援する体感的な方法を考える必要がある。

役割：県民の学びの場

機能：学び支援

■幾久公園

・「みどり・休養」について
・「運動」について

幾久公園の「みどり・休養」について

①委員会のご意見

■当初整備から年数を経ており緑地がうっそうとしており、場所毎に改善が必要。またシンボルゾーン中央にあるケヤキの樹形は、植生基盤がよくない状況にあり改善が必要。

■博物館と公園をつなぐ仕掛けをオープン展示の感じで 公園の中に作っていく必要がある。

■公園の重心位置であるトラックの近くを、子どもの遊び場の見守りついでの利用者、運動施設の利用者などを想定した休憩ゾーンとして、その中心にカフェを設ける方法もある。

②アンケートの結果

■幾久公園は「散歩」での利用割合が多い。
・(幾久公園)散歩　114/265(43.0%)

■幾久公園の魅力では「緑が多い」の割合が多い。
・(幾久公園)緑が多い　165/265(62.3%)
・(引率者)緑が多い　33/ 76(43.4%)

■幾久公園では「トイレ」に対して不便・不満の割合が多い。
・(幾久公園)トイレ　141/265(53.2%)
・(引率者)トイレ　18/ 48(37.5%)

■幾久公園には「ゆっくり落ち着ける緑地」が今後期待されている。
・(幾久公園)ゆっくり落ち着ける緑地　165/310(53.2%)

■記入には「樹木の適正管理」「ペットと散歩したい」「屋根付きの休憩スペースがほしい」「ベンチがほしい」等の記述がみられ、適切な環境の緑地と付帯施設を望む声が高いと考えられる。

③社会情勢

■新たな時代の公園(緑とオープンスペース)は、多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すべき。

【資料3　P24参照】

■福井県は、都市公園について「歴史・文化的資源の活用」「グリーンインフラの取組」を推進している。

【資料3　P24参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察(案)】

◆利用者が最も望む都市の緑は、間伐や土壌改良等をすることで、適切な緑地空間を生み出すことが望ましい。緑地の中では、「遊び」や「運動」で利用する人々が、安全安心に『休養』できる付帯施設(明るく清潔なトイレ、ベンチ、照明等)の配置、また緑の中『散歩』や緑の中に博物館とのつながりを踏まえたオープン展示による『学び』や県内植物等の四季を『鑑賞』できる場となり、公園に博物館の内容を連続させ自然と安らぎと学びを享受できる場としての役割が考えられる。(※オープン展示についてはあり方の追加議論が必要)

役割:自然と安らぎと学びを享受できる場

機能:休息、散歩、鑑賞、学び

幾久公園の「運動」について

①委員会のご意見

■運動施設は、老朽化が目立ち過ぎて、個別に改善対策が必要。

②アンケートの結果

■幾久公園は「陸上練習」「運動」での利用割合が多い。
・（幾久公園）運動　48/265（18.1%）
・（幾久公園）陸上練習（部活動）　47/265（17.7%）
・（幾久公園）テニスコートでテニス　13/265（4.9%）

■幾久公園の魅力では「トラックを走れる」の割合が多い。
・（幾久公園）トラックを走れる　72/265（27.2%）

■幾久公園には「トラックやジョギングの走行環境」が今後期待されている。
・（幾久公園）トラックやジョギングの走行環境　93/310（30.0%）

■記入には「トラックやテニスコートの修繕」「グラウンドを残してほしい」等の記述がみられ、運動施設は残しつつ、修繕を望む声が高いと考えられる。その他、グランドゴルフの大切な練習場所、テニスコートに屋根付きの休憩場所が欲しいなどの要望もある。

③社会情勢

■新たな時代の公園（緑とオープンスペース）は、多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すべき。

【資料3　P24参照】

■近年の傾向として、あらゆる人が、容易に利用できるインクルーシブな公園が求められている。

【資料3　P26参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆幾久公園の来歴を受け継ぐ『運動』の機能は、多くの利用者がいることや歴史博物館との一体化の中においても、誰もが身体を動かし交流できる場として残すことが望ましい。しかし、敷地面積や維持管理費用が限られている中で、多目的広場やトラック、走り幅跳び走路、テニスコート、ゲートボールなどの運動施設の中で、どれを残して修繕し、もしくは新たな施設を追加するのか等について検討する必要がある。

役割：誰もが身体を動かし交流できる場

機能：運動

■歴史博物館と幾久公園の一体化

- ・「地域」エントランスについて
- ・「広場（集い）」について
- ・「遊び」について
- ・「駐車場」について

歴史博物館の「地域」エントランスについて

①委員会のご意見

■無料空間と有料空間が大変認識しづらい。

■博物館の右側の壁（シンボルゾーン側）が閉鎖的であり、オープンな空間にしていくことで公園との一体性が生まれる。

■エントランスギャラリー、情報ライブラリー、ショップ、カフェは賑わいにつながるため、無料空間にあるとよい。無料エリアを広げた場合、公園と一体的なつながりも期待できる。

②アンケートの結果

■博物館アンケートでは、主に展示を中心とする歴史博物館の役割と機能について意見収集したこともあり、エントランス周りへの意見はほとんど見られない。

■Q7〈施設や運営で改善・付加してほしいところ〉で、「ミュージアムショップ・カフェ」を選択したのは来館経験者209名中58名（27.7%）。

■Q7の改善付加してほしい理由としては
・ミュージアムショップでは、現代社会の利便性への考慮や目玉となる展示と関連付けた商品があると面白い、県内他館の図録やグッズも扱ってほしい等商品に対する要望がほとんどを占め
・カフェでは、もう少し今風なカフェに、展示内容とコラボしたカフェメニューが充実すると嬉しい等、内装やメニューに要望が多い。

■歴史博物館のエントランスについての不満や要望の記入は、Q11〈その他のご意見・ご要望〉を含めてほぼ皆無。

③社会情勢

■21世紀美術館、富山県立美術館をはじめ、エントランス部に、開放的なオープンスペースを設け、一体的なつながりを持たせて効果を高めた事例は多い。
【資料3　P27参照】

■博物館法の改正で、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力の向上に取り組むことを努力義務とする。【資料3　P2参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆委員会では無料と有料空間の認識しづらさや入館動線が議論の中心となった。アンケートでは対照的に、エントランスに関する不満や要望は見られなかった。エントランスに気軽に立ち寄れるよう、広いフリースペース、複数の入口、カフェ、観光地域情報の発信等を行い。館の無料エリアと公園を景観や空間、動線面から一体的に活用やつながりをもたせる工夫が求められる。アンケートでは、エントランス周辺の施設については関心が低いため、ニーズを顕在化させる仕掛けが必要と考えられる。

役割：地域とともに情報発信する博物館

機能：地域協働 公園との一体的活用

幾久公園と歴史博物館の「広場（集い）」について

①委員会のご意見

■最初と現在のゾーニングがうまくいっていないように思う。博物館と公園の登記上の境界線にこだわらない空間のあり方を考えてはどうか。
■エントランス前にインパクトのあるものを造ることで公園から館の無料スペースの端まで来られるようなダイナミックなものができたらよい。博物館と公園のつながりが高まる。
■博物館ゾーン、運動施設を含む緑地ゾーンとその間のシンボルゾーンのつながりがあまり感じられない。シンボルゾーンの水施設、花壇がバリアになっており、つながりの視点から検討が必要。
■シンボルゾーンの水施設（噴水）が、公園の中の見通しを非常に悪くしているために、その他のゾーンとの繋がりが悪くなっている。
■博物館の右側の壁（シンボルゾーン側）が閉鎖的であり、オープンな空間にしていくことで公園との一体性が生まれる。

②アンケートの結果

■引率者は両方利用する機会はあるが、一般利用では博物館や公園を単独で利用する人が多く、一体的な利用はされていない。
・（博物館）歴史博物館のみ　113/209（54.2%）
・（幾久公園）幾久公園のみ　166/265（62.6%）
・（引率者）歴博と幾久公園両方を利用　23/ 76（30.3%）
・（引率者）幾久公園のみ　14/ 76（18.4%）

■幾久公園には広場を必要とする「多様なイベントの開催」が今後期待されている。また、その他記入にも「イベントスペースがほしい」等の記述がみられ、イベントの開催やそのためのスペースを求めていると考えられる。
・子どもと参加する体験型のイベント　62/310（20.0%）
・音楽や伝統芸能等のイベント　61/310（19.7%）
・フリーマーケットの開催　235/310（11.3%）

③社会情勢

■新たな時代の公園（緑とオープンスペース）は、多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すべき。
【資料3　P24参照】

■博物館や美術館では、印象的かつ象徴的な展示や遊具を公園として一体的に整備し、人を惹きつける魅力的な施設が全国的に増えている。
【資料3　P25参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆委員会のご意見、社会情勢をふまえ、博物館前の空間を公園の広場として、博物館と一体感を持たせた印象的で引き寄せられる場＝『象徴』とし、誰もが気軽に立ち寄りたくなるエントランス空間をつくる。アンケート意見をふまえ、博物館と公園それぞれの利用者が参加できるで開放的な『集い』の場が求められる。

役割：一体感のある印象的な場

機能：象徴、集い

幾久公園の「遊び」について

■子どもの遊び場は、（親が）見守りやすいシンボルゾーンの周りにあったほうが良い。

■博物館と公園をつなぐ仕掛けをオープン展示の感じで公園の中に作っていく必要がある。

■子どもの遠足、遊ぶ子どもと見守る大人ほか、いろいろな世代がいろいろな利用の仕方をする場所であるので、どんな人がどんな形で利用するかイメージを膨らませつつ、最後には落としどころをつくることが大事。

②アンケートの結果

■幾久公園は「遊び広場の遊具で遊ぶ」での利用割合が多い。
・（幾久公園）遊び広場の遊具で遊ぶ　61/265（23.0%）
・（引率者）遊び広場の遊具で遊ぶ　11/ 76（14.5%）

■幾久公園の魅力では「子どもと遊べる」の割合が多い。
・（幾久公園）子どもと遊べる　84/265（31.7%）

■幾久公園では「遊具」に対して不便・不満の割合が多い。
・（幾久公園）遊具　54/265（20.4%）

■幾久公園には「誰もが使いやすい大型の遊具」が今後期待されている。
・（幾久公園）誰もが使いやすい大型の遊具　92/310（29.7%）

■記入には「遊具がほしい」「安全・安心な遊具を希望」「雨天等でも遊べる場所がほしい」等の記述がみられ、大型遊具や雨天でも遊べる場所を望む声が高いと考えられる。

③社会情勢

■福井県は、日本一幸福な子育て県「ふく育県」を目指し、その一環として、老朽化した遊び場等の修繕や改修を進め、安全で楽しいこどもの遊び場環境づくりを進めている。

【資料3　P28参照】

■近年の傾向として、あらゆる人が、容易に利用できるインクルーシブな公園が求められている。

【資料3　P26参照】

【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の方向性】

◆多くの子どもや家族、引率者にも求められる子どもの遊び場は、あらゆる人が容易に利用でき、歴史も学べるインクルーシブな安全で楽しい遊び場である。また、博物館前の広場の周りに配置し、オープン展示と『遊び』を組み合わせて、博物館とつなぐ仕掛けを施すことが考えられる。（※オープン展示についてはあり方の追加議論が必要）

役割：歴史も学べるインクルーシブな安全で楽しい遊び場

機能：遊び

歴史博物館、幾久公園の「駐車場」について

①委員会のご意見

■駐車場から狭い通路を通って博物館の玄関に行くメイン動線がうまくつながっていない。

②アンケートの結果

■来館･来園時の交通手段は「自動車」が多いが、幾久公園の利用者には「自転車」「徒歩」が多く、地域住民や学生の利用がみられる。

- ･（博物館）自動車　179/209（85.6%）
- ･（幾久公園）自動車　143/265（54.0%）
- ･（幾久公園）自転車　79/265（29.8%）
- ･（幾久公園）徒歩　75/265（28.3%）
- ･（引率者）施設で所有している車　48/ 76（63.2%）
- ･（引率者）借り上げバス･貸切バス　50 / 76（65.8%）

■「駐車場」に対して公園のみ不便･不満の割合が高い。また、記入には「満車が多い」「大型バスの駐車場がほしい」「コートの近くに駐輪できるとよい」「バスやタクシーの公共交通の便が良くなるといい」「駐車スペースが増えるといい」等の駐車･駐輪に関する意見がみられる。

- ･（博物館）　3/209（1.4%）
- ･（幾久公園） 駐車場　45/265（17.0%）
- ･（幾久公園） 駐輪場　15/265（5.7%）
- ･（引率者）　2/ 65（3.0%）

③社会情勢･博物館の現状

■博物館の催しの際は、護国神社の駐車場を借用。バス駐車場はなく、一般車駐車場を利用して駐車している。

【資料3　P31参照】

■幾久公園に2025年9月に「ふくチャリ」のシェアサイクルポートが開設した。

【資料3　P32参照】

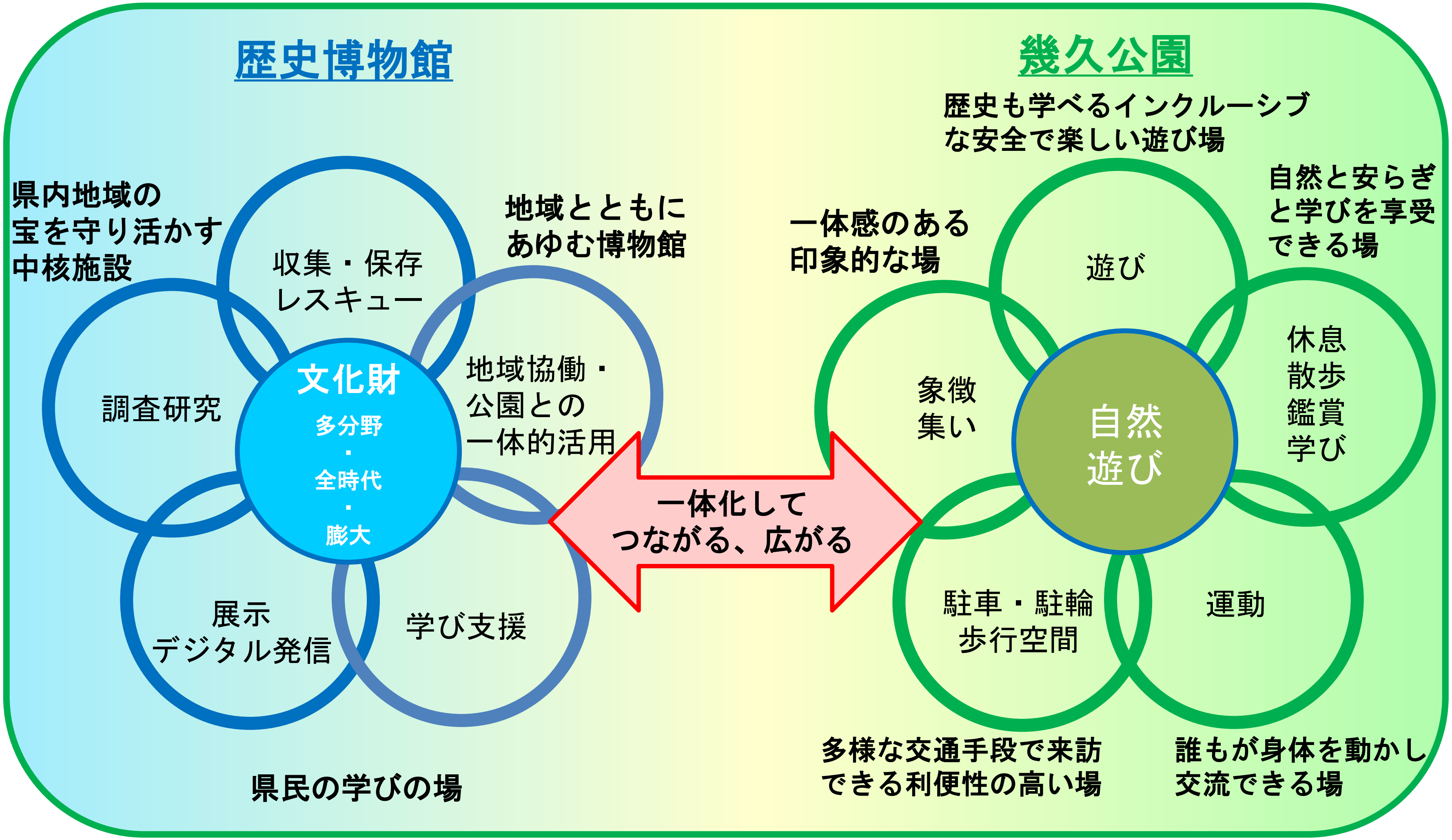
【委員会、アンケート、社会情勢を踏まえた　役割、機能の考察（案）】

◆多く利用されている駐車場は、敷地利用を踏まえて増設の可能性を検討するとともに、大型バスも『駐車』できるよう改良も望まれている。また、近隣の地域住民や部活利用による自転車利用を踏まえて『駐輪』できる場所の増設を検討し、さらに安全で快適な『歩行空間』やバリアフリー経路の確保などにより、多様な交通手段で来訪できる利便性の高い場を整える必要がある。

役割：多様な交通手段で来訪できる利便性の高い場

機能：駐車、駐輪、歩行空間

■歴史博物館、幾久公園のめざす方向性全体像

博物館と公園の役割と機能を一体化することで活動を強化

博物館と公園の2つの役割と機能が重なりあい一体的活動を強化
することで、単独では得られなかった、つながり、広がりうまれる